

## 露地カンキツ類において春季に問題となる病虫害対策(4月号)

露地カンキツ類も発芽～展葉と生育がすすみ、病虫害の防除も本格的に始まりました。5月に入ると、すぐに開花も始まります。開花期以降の病虫害による被害は果実の被害に直結しますので、病虫害対策をしっかりと行ってください。

### 病害対策

#### 春季に防除が必要となる主要な病害は？

春季にはそうか病、黒点病、灰色かび病、かいよう病に対する防除が必要になります。そうか病、黒点病、灰色かび病は糸状菌（カビ）が原因となって起こる病害で、降雨が多く湿度が高いと多発します。かいよう病は細菌が原因となって起こる病害で、温暖で降雨が多いと多発します。

#### ◎そうか病、黒点病、灰色かび病

#### 病害の出にくい環境を作りましょう！

園内の湿度が高いと病害が発生しやすくなりますので、防風樹を剪定するなど通風を確保し、園内に湿度がたまらないようにしましょう。また、黒点病は枯れ枝が伝染源となりますので、見つけたらその都度除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分してください。

#### 薬剤防除は？

灰色かび病が例年問題となる園や着花が多い園では、満開期に灰色かび病に効果の高いナリアWDG2,000倍やストロビードライフフロアブル2,000倍、ファンタジスタ顆粒水和剤4,000倍等を散布します。

落弁期には、マネージM水和剤600倍を散布しますが、この剤は灰色かび病に対する効果が劣ります。灰色かび病が例年問題となる園や着花が多い園では、落弁期防除としてナリアWDGまたはストロビードライフフロアブルにマンゼブ水和剤600倍（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）またはエムダイファー水和剤600倍を加用して散布してください。

灰色かび病の防除時期は開花時期ですが、そうか病は発芽初期と開花時期に加え、発生が多い場合は6月中旬に再度防除が必要です。また、黒点病は8月頃までは防除が必要になります。ぜひ自園地に簡易雨量計を設置して降雨量を確認し、適切な防除タイミングで薬剤散布を行ってください。

## ◎かいよう病

### 病害の出にくい環境を作りましょう！

去年は、台風襲来等の強風雨により、かいよう病が多発した園がありました。前年の罹病枝、罹病葉は伝染源となるので必ず除去し、園外へ持ち出し適切に処分してください。また、強剪定は枝が遅くまで伸長してかいよう病にかかりやすい期間が長くなるため、行わないでください。

### 薬剤防除は？

かいよう病の防除は、3月～5月の防除が重要です。3月の展葉前に防除をされていると思いますが、3月の防除を実施していない園では、4月中下旬、5月上旬にクレフノン200倍を加用した銅水和剤(コサイド3000の場合2,000倍、フジドーLフロアブルの場合1,000倍)を散布してください。ICボルドー66D 60倍をこの時期に散布する場合、単剤で用いると新葉に激しい葉害(葉やけ)を生じる場合がありますので、必ずアピオンE 1,000倍を加用してください。

## 虫害対策

### ◎訪花害虫対策

開花が早い温州ミカンや中晩柑では訪花害虫(コアオハナムグリ、ケシキスイ類)が問題となります。コアオハナムグリは成虫で越冬し、カンキツへは開花時に飛来して花の蜜を吸いますが、その時に爪で子房に傷をつけます。ケシキスイ類は越冬や発生等については不明な点が多いのですが、コアオハナムグリと同様にカンキツの花が開花すると飛来して吸蜜し、その時に子房に傷をつけます。

自園の開花状況や寄生状況を把握し、飛来が確認されたらロディー乳剤2,000倍やアド

マイヤーフロアブル4,000倍、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍等を散布してください。

## ◎チャノキイロアザミウマ

近年チャノキイロアザミウマの被害が増加しているという声を耳にします。チャノキイロアザミウマの主要な加害時期は6月からですが、発生が多い所では5月からの防除が必要となります。

### **発生生態は？**

チャノキイロアザミウマは、冬期は主に成虫で土中や樹皮下などで越冬し、4月ごろ越冬場所から飛び立ち、サンゴジュ等に寄生し産卵します。この卵が孵化・成長し、第1世代成虫は5月中旬位から発生します。その後、10月頃まで世代を繰り返しながら、年間7～8回発生します(第1図)。チャノキイロアザミウマはイヌマキ、サンゴジュ、チャ等多くの樹種に寄生して増殖します。そのため、カンキツ園の近くや防風樹にこのような樹木があると、増殖したチャノキイロアザミウマがカンキツ園に飛来し、果実に被害を与えることとなります。

### **発生源を減らしましょう！**

カンキツ園の近くの雑木等は、発生源となることがあるため、不必要な樹は伐採しましょう。

防風樹としてイヌマキ等が植えられている場合は、夏場に刈り込みを行うと寄生しているチャノキイロアザミウマがカンキツ園へ飛来して被害を及ぼす原因となるため、刈り込みは冬期から春先までに行い、夏場には行わないようにしましょう。

### **薬剤防除は？**

チャノキイロアザミウマの果実への主な加害時期は6月からですが、発生が多いところでは、第1世代にあたる5月からカンキツ園に飛来し、加害することがあります。5月上中旬の訪花害虫対策としての薬剤散布で対応可能ですが、訪花害虫が確認されず、薬剤散布を行わなかった場合は、5月中下旬にアクタラ顆粒水溶剤2,000倍、モスピラン（SL液剤、顆粒水溶剤）2,000倍、ロディー乳剤2,000倍等を散布してください。

チャノキイロアザミウマは、果実への寄生・加害が増える6月以降が重要な防除時期と

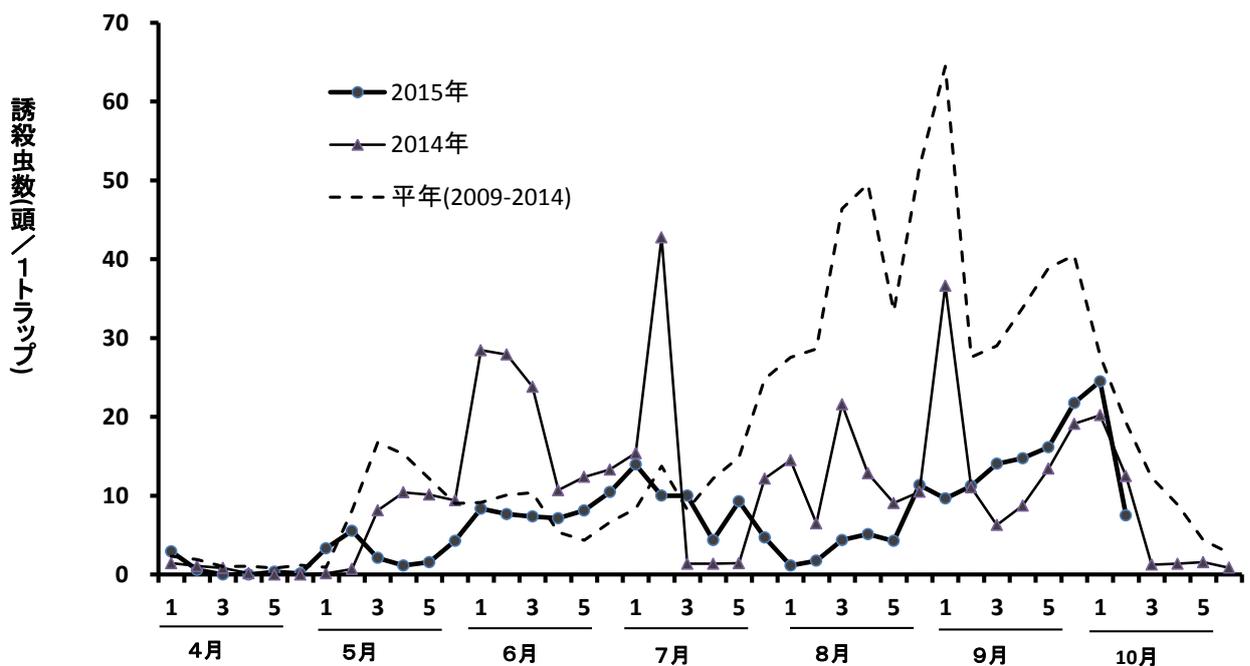
なりますが、発生量や発生時期は気象条件や周辺の植物等により年ごと、場所ごとに異なることがあります。そのため、JA、普及センター、農業技術防除センター等が発表するトラップ調査結果等の情報を参考にして、防除タイミングを決定してください。

これまで春季の主な病害虫防除対策について述べてきましたが、多くの病害虫は生育期間を通して定期的な防除が必要です。これらの病害虫の発生や被害の出方、防除タイミング等は気象条件等で変わることがあります。気づいたら被害が出ていた！ということにならないよう、

○伝染源、発生源を除去して発生量を少なくする

○自分の園地をよく観察して、適切な時期に防除を行う

○防除タイミングに適切に薬剤散布ができるよう、早め早めに薬剤や防除機械を準備する等を常に心がけて、高品質果実の生産に努めてください。



第1図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況（果樹試験場内黄色粘着トラップ）